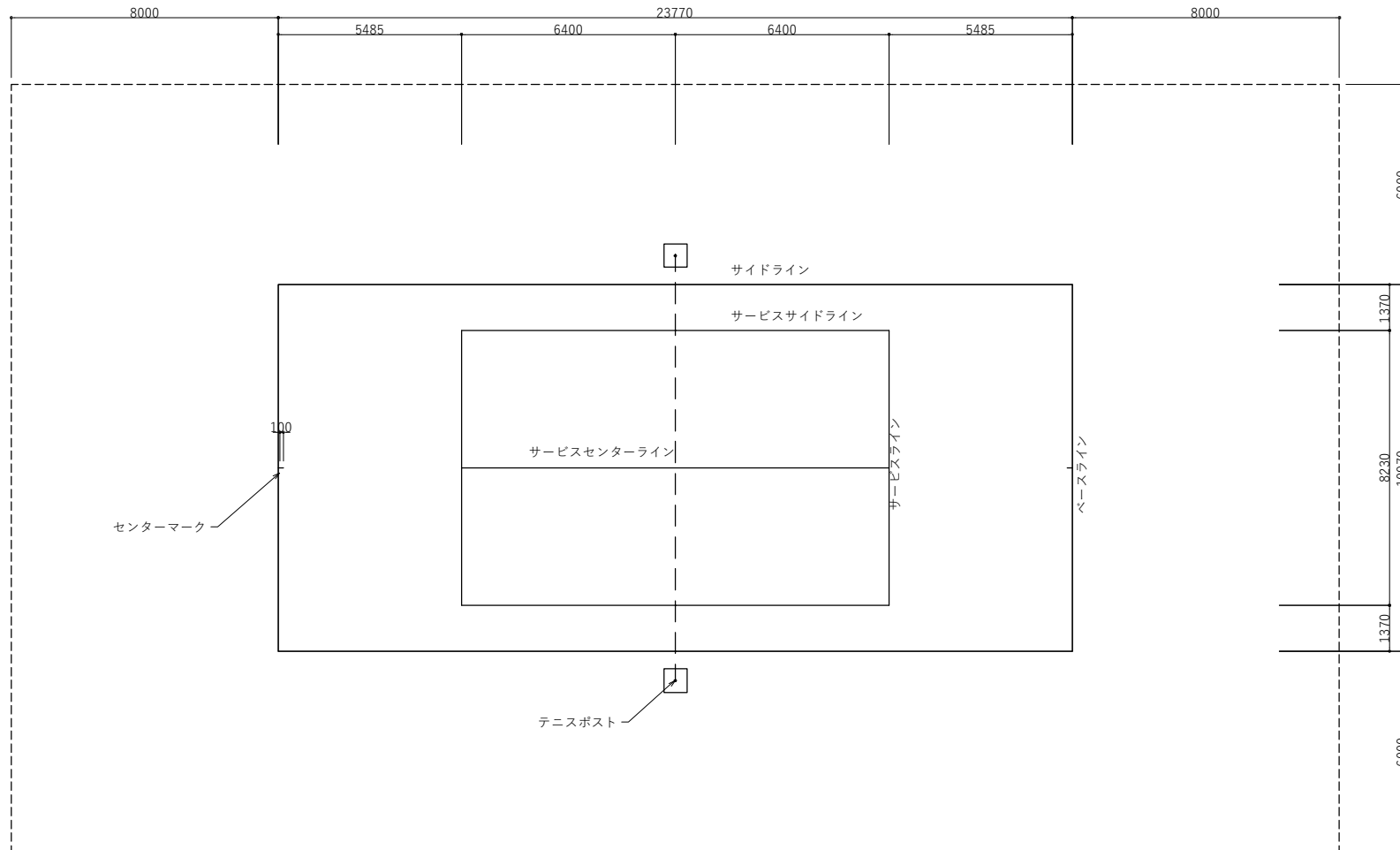


硬式テニスコート1面 18.29m×36.57m=668㎡
 硬式テニスコート2面 32.92m×36.57m=1,203㎡
 硬式テニスコート3面 47.55m×26.57m=1,258㎡



ソフトテニスコート1面 22.97m×39.77m=913㎡
 ソフトテニスコート2面 38.94m×39.77m=1,548㎡
 ソフトテニスコート3面 54.91m×39.77m=2,183㎡

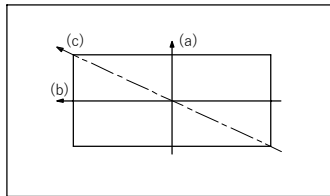
概要

- ・テニスの前身といわれる「ジュ・ド・ポウム」というスポーツは今から約700年も前にフランスでおこなわれていた。その後イギリスに渡りローンテニスとなり、近代テニスへと発達していった。
- ・我が国には、1878年(明治11年)にアメリカ人により紹介され、明治16、17年頃に東京高等師範学校(現在の筑波大学の前身)に日本最初のテニスコートが作られた。1890年(明治23年)に硬球の代用としてゴムボール(軟球)が考案、実用化され、我が国独特のソフトテニスが発達した。1920年(大正9年)各学校の硬球採用が実現し、テニスが普及するようになった。
- ・現在、我が国のテニスコートの舗装は、クレイ系(アンツーカ、緑色スクリーニングス)と、全天候型(アスファルト系、合成樹脂エマルジョン系、ポリウレタン系、ゴムチップウレタン系、人工芝系)があり、コートも多様化時代となっている。

勾配

硬式テニス

- ・硬式テニスコートは水平であることを要する。やむなく排水勾配を取る場合には、排水の効果を考慮した最低限度の片勾配にすることが望ましい。
- ・ベースラインまたはサイドラインと平行に0.3%~0.5%程度の片勾配とするのがよい。
 - (a) 一方のサイドラインから他方のサイドラインへ(横方向)
 - (b) 一方のベースラインから他方のベースラインへ(縦方向)
 - (c) 一方の角から対角線へ (斜方向)
- ・並列配置の場合には、ベースラインと平行に0.3%~0.5%程度の片勾配を取るのが適した設計と考えられる。

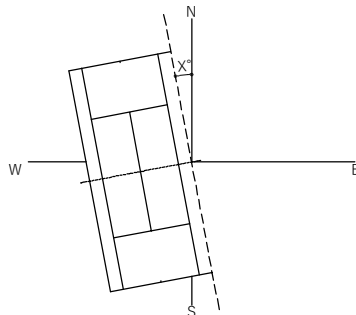


ソフトテニス

- ・ソフトテニスコートは同一平面の平坦なスペースで、整備されていなければならない。アウトドアについては、排水のため勾配を考慮し、プレイに支障のない程度に傾斜をつけることができる。

方位

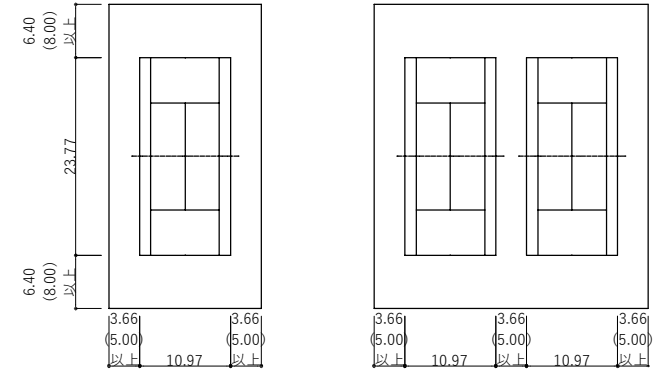
- ・硬式テニス、ソフトテニスとも特に規定は無いが、一般的に太陽光線を考慮して南北方向を基準にコートの長軸を取り、若干北西~南東に振るよう計画することが最もよいとされている。
- ・プレイと太陽高度・方位角は密接なものがあり、我が国のように南北方向に長い国土においては、緯度によって振る角度は異なってくるため、振る角度の決定に際しては、この太陽光線の影響から求めた範囲内で計画するのが望ましい。



寸法

硬式テニス

- ・公式試合の場合、コート周辺のスペースはベースラインから後方に6.40m以上、サイドラインから横に3.66m(コート間も同様に3.66m)以上とする。
- ・主要な公式試合などで、ラインアンパイアを配置する場合、ベースラインから後方に8.00m以上、サイドラインから横に5.00m以上のスペースを設けることが望ましい。
- ・国際試合では、それぞれの大会が定めた規則に従うものとする。



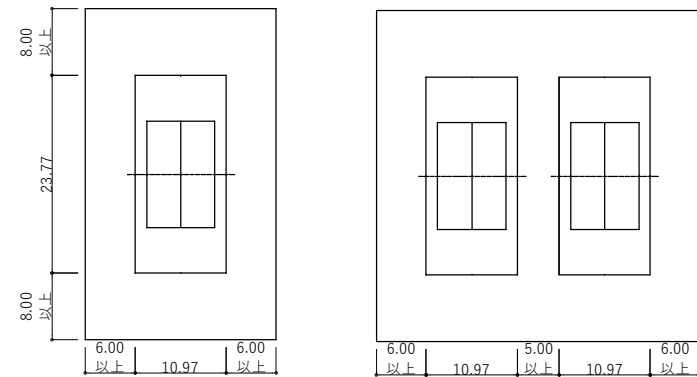
※()の数値は、主要な公式試合等ラインアンパイアを設置する場合。

硬式テニス

(単位:m)

ソフトテニス

- ・コート周辺のスペースは、ベースラインから後方に8m以上、サイドラインから外側横に6m以上であることを原則とする。
- ・コートが2面以上並ぶ場合は、各コートのサイドラインの間隔は、5m以上であることを原則とする。



ソフトテニス

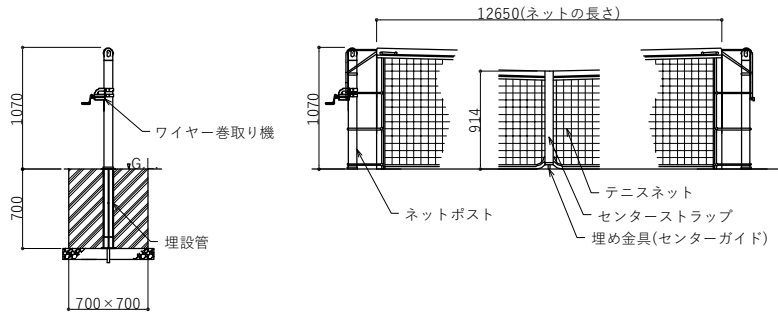
(単位:m)

附属品

テニス支柱(ネットポスト)

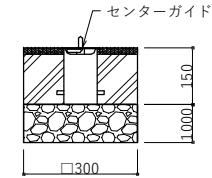
硬式テニス

- ・一般的に用いられているのは、固定式と抜差式で、材質は木製または金属製のものを標準とする。ポストの太さは、一辺の長さまたは直径は15cm以下とし、ポストの中心をサイドラインの外側から0.914m(3フィート)の位置に設置する。ポストの高さは、ネットを吊るワイヤーの上端がコート面から1.07mとし、ポスト最上端はワイヤーの上端より2.5cm以上高くしてはならない。



埋め金具(センターガイド)

- ・硬式テニスコートでは、ネットの中央部の高さ0.914m(3フィート)の高さに絞るため、「ストラップ」というベルトを使用する。そのベルトを固定するために地中に埋め込んだ金具をセンターガイドという。構造等の規定はない。
- ・ソフトテニスコートでは、センターガイドは使用しない。



センターガイド例(硬式テニス)

ソフトテニス

- ・ネットポストは、直径7.5cm以上15cm以内とし、サイドラインの中央部の外側に位置し、サイドラインから同一の距離に垂直に固定させる。
- ・両ネットポストの間隔は、その外側において12.80mで、その高さは1.07mまでの範囲内とすることができる。(サイドラインの上において1.06mから1.07mとし、水平に張る。)
- ・ネットの中央では硬式のようにセンターストラップは使用しない。

